

★今週の聖句

「そこでも、わたしは宣教する」

マルコによる福音書 1:38

★ねらい

① ガリラヤ湖カファルナウムで主イエスは、キリスト（救い主）としての活動を始められた。会堂で神の言葉を語り、大勢の人達の病を癒し、悪霊を追い出される。その働きの中心は何と言っても宣教と悪霊を追い出されるたことだったと繰り返し語る。これは主イエスの働きは人間を救い取る神の働きであり、特定の地域に限定されたものではなく、ガリラヤ全土に拡大し、やがて人間全体に及ぶもので、この働きを推進して行くのは神の霊の力によるのだと主張していると理解できる。

★説教作成のヒント

・ 暗唱聖句にポイントを絞ってみよう。主イエスの働きはカファルナフムの村に限定されたものではなく、ガリラヤ全土に及び、ガリラヤ地域にあるすべての会堂を訪れて、神の言葉を教えられたとある。主イエスの語られるみ言葉がガリラヤ全土の多くの人々の生活に、また、心に、魂に食い込んで行ったと言うことでしょう。それは、その働きが、主イエス御自身の熱意と、神の霊の力に支えられていたから、そのような充実と広がりをもった働きになったのだと言うことでしょう。

★豆知識

昨年（2008年）の初め頃、熊本のルーテル教会の幼稚園、保育園、養護施設、高齢者の方の設など百年の宣教の働きを一覧の写真にして紹介された資料を見ました。そういうものを用いて、教会の伝道の働きを考えるきっかけにはどうでしょうか。

★説教

イエスさまは私たちのいのちに、本当の生きる喜びを与えるために、天のお父さんである神さまのもとから、私たちの所に来て下さいました。そして、ガリラヤ湖の畔にあるカファルナウムという町で活動をはじめられます。イエスさまは弟子の一人シモン・ペトロさんのお家に泊まりました。イエスさまは、そこで熱を出して休んでいたお母さんの病気を治してあげました。するとお母さんは元気になり、イエスさまに食べ物を作ってあげたり、イエスさまのお世話をしてイエスさまのお手伝いを一生懸命するのです。

イエスさまは、イエスさまのもとにやって来た大勢の人たちに、神さまのことを教えてあげて、心の中の悲しみや、苦しみを治してあげたり、病気を治してあげたりしました。それで、町中の人がイエスさまのもとにやって来ました。イエスさまは言われます。「私は、この町の人たちだけではなく、他の町や村の人たちにも、神さまのことを教えるために、困っている人たちを助けるために来たのですから、他の町や村にも行きましょう。そこで、私を待っている大勢の人に会いましょう。」と言われました。そして、ガリラヤのすべての会堂を訪れては、神さまの教えを語り聞かせて廻りました。

イエスさまは、こうして世界のすべての人々のもとに行こうとなさいました。このイエスさまの働きを手伝うためにイエスさまは大勢の人をお弟子さんにしました。そして、お弟子さんたちの心に神

さまの愛の働きができるように、力を下さっています。こうしてイエスさまの働きは世界中に広がり、私たちの所にもイエスさまは来てくださっています。今日もイエスさまは私たちと一緒にいてくださいます。私たち一人一人の所に尋ねてください、神さまの言葉を教えてください、私たちが元気で、明るく他の人たちと一緒に生きることができるよう励ましてくださっています。

教会はイエスさまの働きのお手伝いをするためにたくさんの施設があります。幼稚園や保育園、障碍のある人たちの生活を支える施設、お年寄りの方々の生活を支援する働き、その他にも学校や病院などもあります。これらはみな、人を助け支える神さまの愛の働きであることを覚えましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 1 番

改訂版 1 2 3 番

やってみよ

宣教認定証をもらおう

「イエスさまにならって宣教するものとなりましょう。しかし、宣教するには体力・知力・行動力が必要です。みんなで力を合わせて先生の出す課題をクリアしてください。」

① じゃんけん 全員が先生に勝ったらクリア

② 先生が何を言っても「イエスさま」と答える。

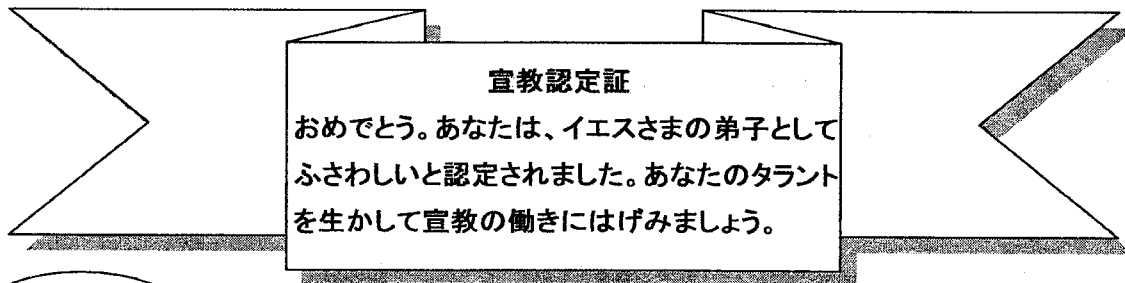
先生「今日は寒いね。」子供「イエスさま」・・・という感じでつられないようにするゲーム

③ 今日の聖書に出てくる登場人物の名前は誰ですか？

(イエス、シモン、アンデレ、ヤコブ、ヨハネ、シモンのしゅうとめ)

④ 今日のみことばを暗唱する。(マタイ 2:38 のイエスさまの言葉)

「おめでとう。全員みごと合格です。みんなには宣教認定証をプレゼントします。」



はなそう

イエスさまが、人々をどのように癒されたか？聖書から見てみましょう。(ルカ 4:38-44 も参考にしてみましょう)

もし、あなたが病気の時、あなたをそのまま受け入れてくれて、文句も命令も言わないで、病気を治してもらえたら、あなたはどう思いますか？

そのことは、あなたの人生にどういう影響を与えたいと思いますか？

★今週の聖句

「子よ、あなたの罪は赦される」

マルコによる福音書 2:5

★ねらい

マルコ 2:1～3:6には、イエスと学者ファリサイ派との論争衝突の5つの事件が記されていて、それが次第に激化していく様子うかがえる。その第1番目のこととして、中風患者の癒しのことが書かれている。宣教活動を終えて、本拠としていたカファルナフムのペトロの家に帰ってこられた。そこには、もう既にみ言葉を聞こうと、病気を癒してもらおうと、人々がいえの門口から家の中まであふれかえています。祖声四人のモノが中風の者をのせた担架を担いでやって来ます。中風は脳出血から起こる運動神経の麻痺で全身または半身不随の状態になる病気で、当時は脊髄炎やカリエスによる神経麻痺まで、この中に含めて考えられていたようです。彼らは群衆のために近づくことができないことを知ると、困ったあげく床を屋根まで担ぎ上げ、そこを破って、病人を担架にのせのままイエスの前につり降ろします。彼らにはイエスに対する強い信頼がありました。それは罪と死からの救いへの深い信仰ではなく、イエスの奇跡に対する信仰で、深みのあるものではなかったにせよ、強い信頼で、あるゆる障害を乗り越えて、イエスに迫る熱心なものでありました。

イエスはこれを喜んで受け入れられました。「その人たちの信仰を見て」（5節）彼に罪の赦しと病気の癒しを与えられます。この場合に、この中風の病人に信仰があったかどうかは不明です。四人の友の強い信仰と厚い友情がイエスを動かし癒しが行われたようです。このことから、他者のための執り成しの祈りが他者の救いに繋がるものであることを学ぶことができる。

★説教作成のヒント

1. イエスの愛と力を信じて、大変な思いをしながら病気の友をイエスのもとに運び、癒してもらう4人の友の信仰と友情を学ぶ。但し、5～10節の罪の赦しの問題は、これがまさに論争の中心問題であったにしても、子どもの理解を超えた事柄であり、余り触れないこととする。

★豆知識

イスラエルの人たちの住居が外に会談が着いていて登りやすかったこと、屋根をはいだことは、いかに友人の身を案ずるが故の行動とはいえ、非常識で乱暴なことであり、後で深く謝罪し修繕して帰ったことは、聖書に書いていなくとも常識的に十分考えられることなので、その旨を説明する必要があると思う。

★説教

皆さんが初めて教会に来たときは、一人で来たでしょうか。それとも、誰か友だちと一緒に来たでしょうか。お父さんやお母さんか誰か家族の人と一緒に来たでしょうか。その時はどんな気持ちだったでしょうか。今日のお話しに出てくる人は、体が悪くて、自分の力ではイエスさまの所に来ることができませんでした。この人はどのようにして、イエスさまの所に来ることができたのでしょうか。

か。いつも、ひとりぼっちで、病気で寝ている寂しい思いをしている病人がいました。その人の四人の友だちはいつもこの人のことを心配していました。この四人は、毎日あちこちで、神さまのお話をしたり、重い病気の人や熱のある人を治してあげたりしているイエスさまのことを聞いていました。この病気の人を何とかしてイエスさまの所に連れて行ってあげたいと思っていました。ある時、イエスさまがお弟子さんのペトロのうちに帰って来ているというニュースを聞きました。四人の友だちは早速病人を担架に乗せて、イエスさまがおられるうちを探して、病人を担いでやって来ました。ところがあんまりたくさんの人たちがお話しを聞きに来ていたので、家の中も入り口まで一杯になっていました。病気の人を担架に乗せたまま家の中に入ることはとてもできません。四人の人たちはどうしたのでしょうか？「これはとても無理です。」と言ってあきらめて帰ってしまったのでしょうか？それとも、みんなが帰ってしまうまで、家の外で待っていたのでしょうか？

四人の友だちは考えました。「そうだ。いい方法がある。屋根をはがして、そこから友だちを担架にのせたまま、イエスさまの所につり降ろそう！」4人の友だちは屋根に登り力を合わせて、屋根に大きな穴を開けて、そして、病人が担架から落ちないようにそろそろとイエスさまの所へつり降ろしました。イエスさまだったらきっと友だちの病気を治してくださると信じていたのです。

イエスさまはこの四人の友だちの優しい心と、イエスさまを信じたその信仰をととても喜ばれて、病気の友だちに「起きなさい。家に帰りなさい」と言われました。すると、今まで起きあがることができなかつた人がすっかり病気が治り、立ち上がり、みんなの前を歩いて出て行きました。四人の友だちは、友だちの病気が治って嬉しかったでしょうね。みんなの周りにも悲しんだり、苦しんだり、心が傷ついて泣いている友だちはいませんか。そんな友だちが、イエスさまに出会って、イエスさまが愛してくださっていることを知って、元気になるように祈ってあげてください。

★分級への展開

さんびしょう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

119番

改訂版114番

はなそう

病を癒すことができるのは、どういう人でしょうか？

罪を赦すことができるのは、どういう人でしょうか？

ある人々は、イエスさまが奇跡を起こしても、イエスさまのことをただの人間だというふうにしかりませんでした。それは、なぜでしょう？考えてみましょう。

人間が、相手を受け入れることができないのは、どんな時でしょうか？

イエスさまを神さまの子だと信じることの難しさは、どういうところだと思えますか？考えてみましょう。

やってみよ

□ 寸劇をしよう

<用意するもの> シーツ又は毛布(たんかとして使うもの)

<登場人物> ナレーター、4人の友達 中風の人、イエスさま

ナレーター「イエス様は、カファルナウムに来られ、ある家でお話をされていました。みんなイエス様のお話を聞こうとたくさん集まってきて戸口まで人がいっぱいあふれていました。この町に長い間、中風をわずらっている人がいました。この人をイエス様に会わせようと4人の友達がたんかに乗せてイエス様のところへ連れて行きました。」

友達A 「人がいっぱいではいけないぞ。」

友達B 「こまったな〜。」

友達C 「よし、いい考えがあるぞ。屋根に登ろう。」

友達D 「うん。屋根と天井をこわして中に入るんだ。」

ナレーター「4人の友達はたんかに寝たままの中風の人を、やっと屋根の上まで運びました。それから屋根の石を1枚1枚はがして大きな穴を開けました。何とかして、この中風の人をイエス様にあわせてあげたいと思っていっしょうけんめいでした。とうとう、たんかはなわでつるされてするとイエス様の前に下りてきました。イエス様は、4人の友達のやさしい心といっしょうけんめいな働きをみて、たいへん感心されました。」

イエス様 「あなたの罪はゆるされた」

ナレーター「ところが、そこにいた律法学者達は、心の中でぶつぶつもんくをいいました。」

律法学者 「この人はなんと言うことをいうのだろうか。罪をゆるすことができるのは神さまだけなのに。」

ナレーター「イエス様は彼らが心の中で考えていることをすぐに見抜きこう言われました。」

イエス様 「中風の人に『あなたの罪はゆるされる』と言うのと『起きて家に帰りなさい』というのとどちらが簡単だと思いますか？」

ナレーター「そして、中風の人に言われました。」

イエス様 「さあ、起きて友達と家に帰りなさい」

ナレーター「長い間、病気だったこの人は起き上がり家に帰って行きました。人々は皆驚き『このようなことは、今まで見た事がない。』と言って神さまを賛美しました。」

★今週の聖句

「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である」

マルコによる福音書 2:17

★ねらい

イエスはすべての人を神の愛の絆から離れてしまっている人、失われている人と見ています。しかし、それは差別するためではありません。すべての人を神の愛の絆に回復することを自分の使命としていたからです。ですから、イエスのいるところに、取税人も律法学者も共にいたという設定になっているのだと私は受け止めました。イエスを中心とした交わり、教会の交わりが、あらゆる人間のこの世的な対立や差別を克服する場所なのだということを確認し合う。(使徒言行録15章5節にはパリサイ派からキリスト教へ改宗した人もいるとの報告もある。)

★説教作成のヒント

- ・イエスさまが、取税人を弟子として、その家で食事を共にした意味を考える。一緒に食事をするということは、互いの信頼を現し、互いを受け入れ合うという意味があります。私たちの教会がイエスさまを中心とした交わりになり、対立や差別や抗争を克服した場所になっているかを考える。

★豆知識

医者について、パウロの同労者ルカが医者とされているように、当時、すでに医者は職業として成り立っていたが、同じように祭司や律法学者も病気に関する知識があり、医療行為を行っていたとある。信仰と体の健康、そして心の健全とは切り離せない事柄であることを古代社会に置いても認識されていたようである。

★説教

イエスさまは、ガリラヤの湖のそばを歩きながら、イエスさまの周りに集まってくる大勢の人々に神さまのお話をされました。途中でイエスさまは、レビという人が税金を集める場所に座っているのをご覧になりました。レビは、ユダヤを支配しているローマに税金を納めるために、ユダヤ人から税金を取り立てる仕事をしていました。その為と同じユダヤの仲間から、お金のためならローマの国の手下になって、仲間のユダヤ人からお金を取る許せない人と思われ、仲間を裏切る裏切り者と嫌われていました。それはローマに治める決められたお金よりもたくさん集めて自分のお小遣いにしていたからです。人々はいつも、そんなレビを怖い冷たい目で見っていました。

レビはイエスさまが自分を見ている眼差しに気づきました。その眼差しは、いつも自分を見る人々の冷たい、怖い眼差しとは違っていました。心が柔らかくなり、安心するような暖かい眼差しでした。レビもじっとイエスさまの顔を見返しました。なんだか気持ちが軽くなっていくように感じました。イエスさまの眼差しは、レビに「信頼しているよ」と優しく語りかけているようでした。そして、イエスさまはレビの近くまで来て言いました。「私に従ってきなさい」レビは収税所で働いている最中

でしたが、仕事も今までの生活も捨てて、すぐにイエスさまの弟子になり、イエスさまに従い、ついて行ったのです。イエスさまの弟子になったのは、人々から間違ったことをしているとされた人たちでした。イエスさまは、だからこそこの人たちと仲間になり、神さまの愛を伝え、正しいとされる生き方を教えたかったのです。

イエスさまはそれからレビの家で食事をすることにしました。レビは自分の仲間の徴税人や神さまの掟を守れない罪人とされる人をたくさん招いて食事会をしました。人々からは嫌われている人が大勢集まった食事会でした。イエスさまはその人たちと楽しそうに食事をされました。この様子を見ていた律法学者は驚いて、イエスさまの弟子たちに聞きました。「どうして、あんな人たちと一緒に食事をするのか？」これを聞いて答えたのがイエスさまでした。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。私が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」神さまは、愛を知らないで、渴きを覚えている人、満たされていない人、不自由を感じている人が、イエスさまを必要としているであることを知っておられるだけではなく、そのような人をそのまま放っておかれることもありません。イエスさまの愛を最も必要としている人を、私の所にいらっしゃいと招いてくださり、その人たちと一緒にいることを喜んでいてくださるのです。

時を越え、今も、イエスさまは同じ慈しみの眼差しで私たち一人一人を見つめていて下さいます。イエスさまが愛の中へ私たちを招いてくださっていることに感謝しましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

90番

改訂版126番

はなそう

イエスさまは、ほんとうに困っている人を助け、救われました。

今、わたしたちの社会では、ほんとうに困っている人が助けられ、救われているでしょうか？

自分たちにできることはあるでしょうか？話し合ってみましょう。

次の4つの中で、あなたにあてはまるものがありますか？→（丈夫な人・病人・正しい人・罪人）

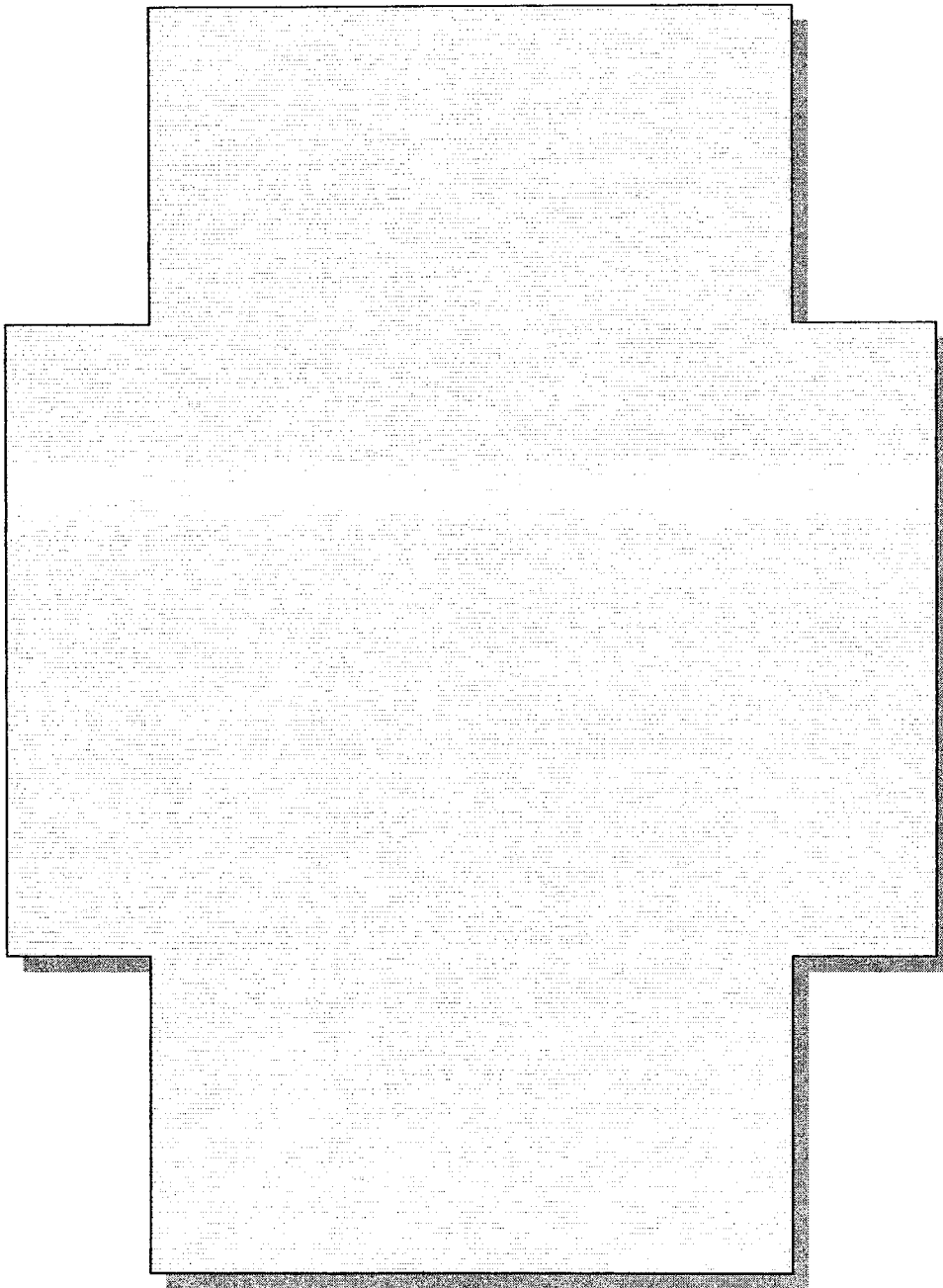
マルコ 2:17 を読んで、あなたはどう思いますか？

やってみよ

□罪人ってどんな人？

「医者を必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」 マルコ2:17

・イエス様の言われる罪人ってどんな人なんだろう？ 思いつくまま十字架の中に書いてみよう。



★今週の聖句

「これは私の愛する子。これに聞け」

マルコによる福音書 9:7

★ねらい

ペトロは「あなたはメシア（救い主）です」（8章29節）とイエスさまのことを告白しましたが、イエスに対してメシアという称号は、マルコ福音書はここまでに、冒頭の所でキリストという言葉を使っているけれども、以後ここまで使われていない。マルコ福音書は全体として、イエスは十字架上で亡くなって自分たちの中に生きておられるという体験の中で書かれています。ペトロはこのように告白しているけれども、実際にはその本当の意味を深く理解するのは、十字架の出来事の後で初めて、この人は本当の神の御旨をあらわした人メシアであると受け止めることができたと言うことであるので、誤解を招かないように注意深くこの言葉を取り扱ったということになります。十字架上の死、それによって初めて明らかになった永遠の神の愛の業、それによって私たちも生かされると繋がる。そこで、「神の国が力に溢れて現れる」というキーワードに触れ、更に主の変貌の出来事の後、「彼らはこの言葉を心に留めて、死者の中から復活するとはどういうことか」（10節）という議論に展開していく。

復活する（アナステーミ）は「起きあがる」という意味、それが1節の「力に溢れて」（デュナミス）と結びつけられています。私たち人間一人一人の人生に、どんな問題を持っているにしても、日常的にどんなに困難な、大きな問題を担っているとしても、不安や問題があるけれども、神さまは御子イエスを通して起きあがる力を、克服していく、乗り越えて行く、そこから立ち上がっていく力を与えてくださる。その神の救いの力がここに（主イエスという存在の中に）示されているというのが、この変貌の物語の意味ではないかと思えます。

★説教作成のヒント

- ・主イエスは十字架の死によって初めて示される永遠の命の救い主（メシア）であること。それをペトロも弟子たちも理解することができなかつたけれども。神の愛するひとり子が十字架にかかって命を捨てられ、それによって神の愛の業が初めて示され、弟子たちも、この十字架と復活の出来事に会い、そこで初めて本当の神の愛の業に触れて理解できたのだから、私たちも、このイエスを見つめ続け、耳を傾け、従って歩むことによって、主イエスの真の救いの力に与る者とされるのだということを、子供たちに分かる例話で話すとよい。

★豆知識

「これはわたしの愛する子、これに聞け」は詩篇2章7節からの引用。救い主について書かれている箇所。ペテロが思い描いている人間的な思いではなく、神が人となって来られたこのイエスという方の生涯を通して（人格を通して）神の御旨が明らかにされるということです。

★説教

けんちゃんはとても活発な元気な子です。毎日体を動かして元気に遊び回ります。縄跳びをしては、「先生！見て見て！こんなに飛べるようになったよ！」トランポリンで跳びながら、「先生！見て！見て！膝を突いて飛べるようになったよ」と元気に遊ぶ自分の姿を、先生に見てもらるのが大好きなけんちゃんでした。

ある冬の日、けんちゃんは小学生のお兄ちゃんとお父さんとお母さんの家族4人で、初めてスケートに行きました。スケートの靴を履いて、お父さんに手をとってもらって、リンクの中の氷の上に立たせてもらいました。でもなかなか上手く立てません。手すりにつかまりながらそろそろと転ばないように気をつけながら、リンクの周りを回っているうちに、けんちゃんはだんだん上手に立てるようになりました。「そう、そう、その調子。うまいぞ、けん」お父さんが一生懸命励ましてくれます。ちょっとした間なら、てすりから手をはなせるようになりました。すると、おとうさんがけんちゃんを、スケート・リンクの真ん中まで、手をつないでつれていきました。そして、こう言いました「いいか、お父さんのほうを見て歩いてごらん。お父さんが手を離して、五、六歩後ろにさがりました。けんちゃんは、ふらふらしながらも、倒れないように一生懸命お父さんのほうを見て歩いて行きました。おとうさんのところに到着して手につかまると、今度は、またお父さんが手を離して後ろへ下がります。今度は前よりも少し遠く、10歩ほど離れて、ここまでおいでと手を広げて待っています。今度も上手く歩けました。「やった！」けんちゃんは完歓声を上げました。けんちゃんはスケート靴を履いて、氷の上に立てるようになり、一生懸命お父さんを見て、おとうさんの後について滑ることができるようになりました。

イエスさまは、ある時、山の上でその姿が真っ白に変わるという不思議なことをなさいました。そして、天からの神さまの声を弟子たちは聞きました。「これはわたしの愛する子、これに聞け」それは、かみさまの救いを信じる人たちに、あなたたちは、これからは、わたし（父なる神）のことは、この、神さまの子である、イエスさまによって分かるようにします、と言っておられるのです。だから、父なる神さまのことはどんなことでも、イエスさまに信頼して聞いていきなさい。いつでも、どんなときでも、イエスさまから目を離さないで、イエスさまに従ってついて行きなさいと、神さまは言われるのです。イエスさまの愛の心と働きは、そのまま、神さまの愛の心であり、神さまの愛の働きなのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

48番

改訂版5番

やってみよ

□ 顔が変わるよ(製作)

<用意するもの>

紙皿(1人2枚) マジックペン はさみ

- ① 2枚の紙皿それぞれに大きく、笑った顔、泣いた顔 or おこった顔を書く。
(この時顔の大きさを2枚ともだいたい同じ大きさに描くとよい)
- ② 外円の1点から中心に向かって直線に切り込みを入れる。
- ③ 2枚を重ね、切込みから2枚目をくるくると出していけば顔が変わります。

はなそう

□ 変容とは、なんでしょうか？牧師さんに聞いてみましょう。そして、聖書や資料でも調べてみましょう。

□ ペトロとヤコブとヨハネは、神さまの声を聞きました。

- ・ 彼らは、どう思ったのでしょうか？
- ・ その後、彼らのイエスさまに対する気持ちは、それまでと何か変わったのでしょうか？